

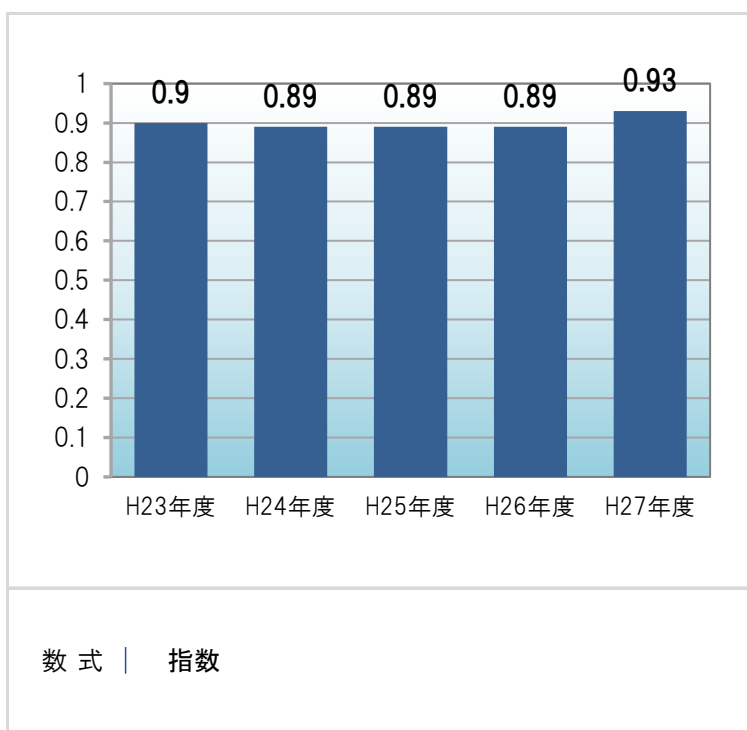
29 在院日数の指標

● 項目の解説

平均在院日数は患者の構成により数値が異なるために、患者構成を加味しない単なる平均在院日数は意味がありませんでした。DPCにより、最も医療資源を投入した傷病名と、行った治療行為に患者分類が行われ、それぞれのDPCごとの全国平均の在院日数も公表されました。このデータと、自院のDPCごとの在院日数により、同じDPCでも在院日数が全国よりも長いのか短いのか判断できます。

数値は1.001が全国平均の在院日数であり、大きい方が全体として在院日数は短いことを示しています。

● 当院の実績



単 位 | —

期 間 | 6 か月

備考・コメント

この指標の数値が大きいほど、全国平均よりも在院日数が短くなることを表します。ただし、大学病院では治療に難渋する重症患者さんを診療することも多く、この指標のみをもって単純な比較はできません。項目30の患者構成の指標もあわせて考慮する必要があります。

平成27年度国立大学病院平均値 1.001

● 定 義

厚生労働省のDPC評価分科会の公開データです。(平成27年度全調査対象医療機関の全体の在院日数の平均値(12.67日)を、DPC毎の患者構成を平成27年度全国平均に合わせた際の医療機関別の在院日数で除した値)

参考：<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000150723.html>